

一人ひとりの想いつたえたい >>> あなたの声でつくる情報誌

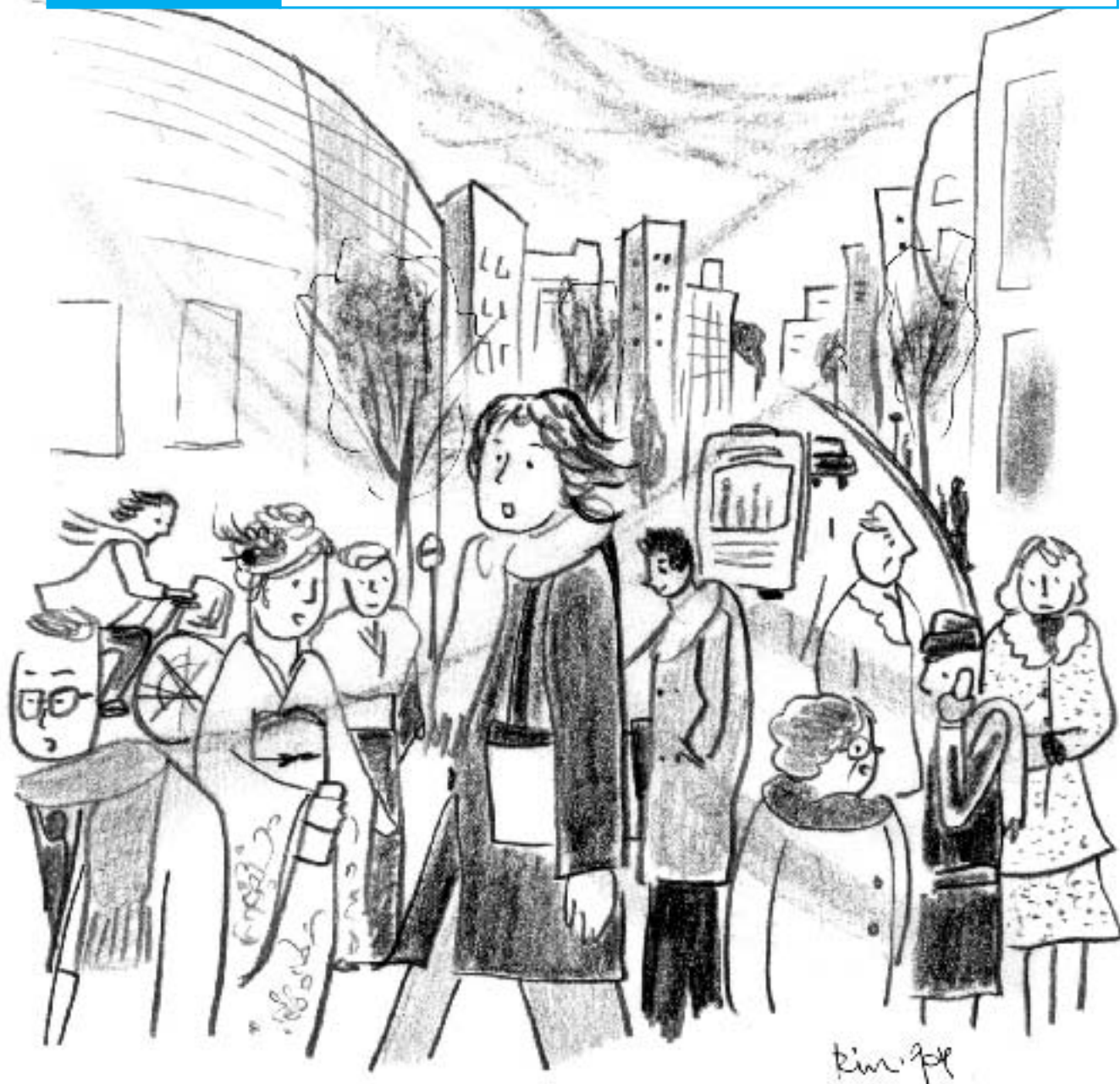
NO.57

2005・冬号

まなこ

企画・発行

武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当



特集 道、これから「新しい一歩を踏み出すために」

取材

- 東京しごとセンター
- 1本の麻ひもをたどってきたら
- 19歳、保育士をめざして勉強中

レポーター体験記 松田理恵さん

歌川智子さん

佐々木雄一さん

レポーター体験記 曾我部一美さん

寄稿

- ・ 勇気を出して……

馳 令子さん

情報

- ・ 「ライター入門講座」のお知らせ
- ・ DV防止法の改正、施行について

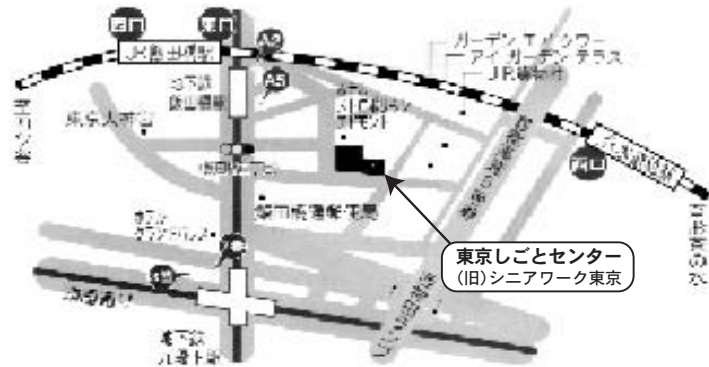
市民活動センター男女共同参画担当

東京しごとセンター

(図1)

10~12F	東京都立高齢者技術専門学校
9F	東京都労働相談情報センター
8F	財団法人 東京しごと財団
7F	東京都職業能力開発協会 東京都福祉人材センター
4・5F	能力開発フロア
3F	ヤングフロア (若年者フロア)
2F	ミドルフロア (中高年者フロア)
1F	総合相談、専門相談、高齢者フロア

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-10-3
 総合相談窓口 TEL 03(5211)1571
 URL <http://www.tokyoshigoto.jp/>
 利用時間
 平日 9時~20時 土曜 9時~17時
 (日曜・祝日・年末年始はお休み)
 ※すべてのサービスは、無料です。
 一部、講習のテキスト代(実費)がかかります。



今、移り変わりの激しい複雑な社会の流れの中で、誰もが自分の生き方を見直し始めています。また、先行き不透明な時代、自分や自分の環境を変える必要が生まれてくるかもしれません。

たとえ困難にぶつかって立ち止まることがあっても、そこから、新しい世界、新しい自分と出会えることもあるはず。さあ、少しだけ勇気を出して歩き始めてみませんか。道はこれから、どこまでも続いていくのですから……

取材

東京しごとセンター

平成16年7月26日にオープンした東京しごとセンター。竹間みつる就業支援課長にお話を伺った。「求人数はそれなりにあるにもかかわらず、失業されている方はたくさんいらっしゃいます。厳しい雇用情勢の要因であると思われる雇用のミスマッチの解消と、都民の多様な就業ニーズに応えるため、都独自の取り組みとして設置されました」運営は、(財)東京しごと財団に委託。ここに入居するさまざまな雇用就業関連機関(図1)と、密接に連携しながら幅広い就職支援サービスを行っている。(取材・構成 加藤和子)

取材体験記

まなこレポート 松田理恵

企業に6年あまり勤務、退職して7年。子育てに忙しい私が聞いてみました。

Q 初めて利用する人は、まずどこへ?

A 1階の総合相談にお立ち寄りください。ここで利用案内や適切な窓口の紹介をします。

Q 中高年向けサービスとして「民間就職支援会社の活用」がありますか?

A 当財団が委託した、民間就職支援会社を利用できます。このアドバイザーが、利用者1名につき1名担当としてつきます。カウンセリングから求人情報の提供、職業紹介まで就職支援を一貫して行います。

Q 自分専任のアドバイザーがついてくれるのですか。カウンセリングとは?

A 利用者と話し合いながら、適性や職務経歴、希望などを考慮して就職活動プランを作成し、その実現に役立つセミナーや能力開発コースなど様々なメニューを提供していきます。もちろん自分が必要とするサービスだけを受けられることもできます。また就職支援会社の持つ豊富な情報を使って、利用者に合う職業を紹介します。

利用の対象を①中高年者(おおむね30歳以上54歳以下)②若年者(おおむね29歳以下)③高齢者(おおむね55歳以上)に分け、相談・カウンセリング、セミナー、能力開発、情報提供などのサービスを行っている。また、起業・創業やNPO・ボランティアなど雇用以外の多様な働き方にかんする専門相談も行っている。「年齢別にそれぞれ特色があり、サービスの内容も異なっています」たとえば、中高年者では豊富な経験とノウハウを持つ民間就職支援会社を通じて、一貫した支援サービスが提供される。また高齢者にはきめ細かな就業相談を行い、1階にあるハローワーク飯田橋高齢者職業相談室と連携して、職業紹介を実施している。

そして若年者。就業意識の低下が何かと話題にされたり、仕事探しで悩む若年者も多いと聞くが……。「若年者の場合は、職業観の育成に重点をおいています。働くこと、仕事とは何だろうということから一緒に考えていこうと。就職支援アドバイザーによるカウンセリングのほか、自己分析やコミュニケーション能力

お話を聞いた就業支援課長の竹間みつるさん



一部の講習でテキスト代がかかる場合もあるが、このセンターで行われるサービスはすべて無料。また平日の昼間に就職活動が困難な人(在学生、フリーター、転職予定者など)も利用しやすいようにと、平日は午後8時、土曜日も午後5時まで開館している。

Q 仕事を紹介してもらっても、採用されないこともあるがと思いますか?

A その場合、何に問題があったか、どのようにしたら成功するかをアドバイザーが利用者と一緒に考え、次につなげます。そうやって就職力のアップを図っていきます。

質問を終わって

ハローワークで仕事を探す場合、その仕事に自分に合っているか、どのようにアプローチしたらいいかなど、自分自身で考えなければなりません。ましてや私たちの年代の主婦には、長い間仕事から離れていたため、再就職などできるかどうかと不安で一步を踏み出せない人が多いのではないのでしょうか。まず何から始めたいのか、最初の段階から親身になって相談にのってくれるアドバイザーの存在は心強いことです。ぜひ多くの再就職を望む人たちにセンターを訪れてほしいと思います。



レポートの松田さん



19歳、 保育士をめざして勉強中

佐々木雄一さん 境南町

「このバッグは本当に偶然できたものなの」手織り麻ひもバッグの作家、お絵かき創作教室の先生である歌川さんは3人の娘を持つ母でもある。グラフィックデザイナーとして働いた後、出産を機に退社。子どもたちの生活を何よりも大切にしたい。でも何かやりたい。遊びにきた子どもたちと廃材を使っていろいろなものを作っているうちに、自宅で教室を開くことを思いついた。まだ入園前だった下の子を傍らで遊ばせながらという形に夫も「やってみればいいんじゃない」と。こうして専業主婦からの一歩を、勇気を出して踏み出した。



自然に囲まれた武蔵野大学のキャンパスで「保護者の心のケアについても勉強していきたい」

「小学校の先生になりたい」と作文に書いた少年は小さい子どもと遊ぶことが好きだった。高校2年のとき保育士になることを決め、04年4月、佐々木さんは保育学科に入学した。中学・高校は大学の付属校に通っていたが、その大学にめざす学科はなかった。男子学生が学べる保育科のある大学は少ない。専門学校も考えていたとき、武蔵野女子大学が共学になった。「運が良かった」と笑う。もちろん運の良さだけではない。進路を相談したときの両親の言葉「自分の道は自分で決める。やりたいことであれば応援する」が、大きなバックアップになった。高校の同級生の8割が併設大学進学者だが、仲の良い友人は他大学への進学も多く、自分だけが違う道を選んだという意識はない。

保育所でアルバイトをした夏休み、2人の男性保育士とともにたくさんの子どもたちに囲まれた。得意科目は体育だったのにここでは役にたたなかつた。身体ごとぶつかってくる子、抱っこをせがむ子、一人をおぶえば群がってくる。帰宅後は腰の痛さと疲れで倒れるように横になった。それでも休日になると夜更かしをし、友人たちともしつかり遊んだ。子どもの世話は進んでるが、自分の身の周りのことはなかなかできない。部屋の片付けが一番苦手で床が見えない状態だ。保育所での子どもたちは脱いだ服を棚に入れて、靴は靴箱に入れていたのに。一番大変な授業はピアノの実技。大きくなってからあまり練習をしていなかった。指がうまく動かない。高校までの勉強とはまったく違う科目の多さにも驚いた。「子どもが好き」だけではすまない現実の数々。今、保育学科の男子学生は24人中13人。もつと増えてほしいと思う。でもこの先何が起るかはわからない。もし、途中で違う方向に進んでも今の自分を決して後悔しないと力強く言った。(文 尾花雅子)

1本の麻ひもをたどってきたら……

自作のバッグに囲まれて「手染めた麻ひもにさまざまな種類の素材を織り込んでいます」



歌川智子さん 関前

それから4年後、自分用の手頃なバッグが欲しいと思っていたとき、荷造り用の麻ひもに目が留まり思いつくままに織り作ってみた。それが友人たちの間で評判となり、アートフリーマーケットに出展。偶然スカウトの目に留まり、現在は委託店への出品や企画展示販売、注文制作など忙しい毎日だ。

「このバッグは本当に偶然できたものなの」手織り麻ひもバッグの作家、お絵かき創作教室の先生である歌川さんは3人の娘を持つ母でもある。グラフィックデザイナーとして働いた後、出産を機に退社。子どもたちの生活を何よりも大切にしたい。でも何かやりたい。遊びにきた子どもたちと廃材を使っていろいろなものを作っているうちに、自宅で教室を開くことを思いついた。まだ入園前だった下の子を傍らで遊ばせながらという形に夫も「やってみればいいんじゃない」と。こうして専業主婦からの一歩を、勇気を出して踏み出した。

仕事が軌道に乗り始めた頃、夫が勤めていた会社を退職することに。長女は高校受験とも重なり「あのときはかなり厳しかった」それまでは収入をあてにしないで済む仕事だったのが状況は一変。「バッグの売上を握って夕飯の買い物に行ったこともあるの。でも仕事は希望の光だった。収入は多くなくても精神的に救われた」そんな両親を見て、長女は都立一本での受験をした。夫からも「頼りにしているから」と励ましの言葉をもらった。「でも、再就職して自分の仕事が忙しくなってきたら、もうありがたみを忘れてるんだよねえ」と笑う。個展の開催を機に、ギャラリーのオーナーに薦められ織り機の構造の実用新案をとった。申請用の図面は求職中だった夫が引き受けてくれた。いろいろな人との運命的な出会いのおかげで今の自分があるという。「1本の麻ひもをたどってきたら、ここに來たって感じかな」と。夢は麻ひもバッグの作り方の本を出版すること。最近では作る楽しさを味わってほしいとの想いから体験講習にも力を入れている。(文 星 詩子)

「この家にでもある廃材にちょっとした工夫をしてみませんか？ カップの底から電気にかざして見てもいいし、暗い所で懐中電灯の光を通して壁に映してもきれいな星空の図案にすれば、まさにプラネタリウム！ 美しさに感激する子どもたちの目がキラキラして一番きれいです。(アイディア&イラスト 歌川智子さん)

取材体験記

おにいちゃんせんせいって、おもしろい

まなこレポーター 曾我部一美 かずみ

「きょうね、おにいちゃんせんせいきたよ」「男の先生ってどう？女の先生と違うの？」「えっ、なにが？



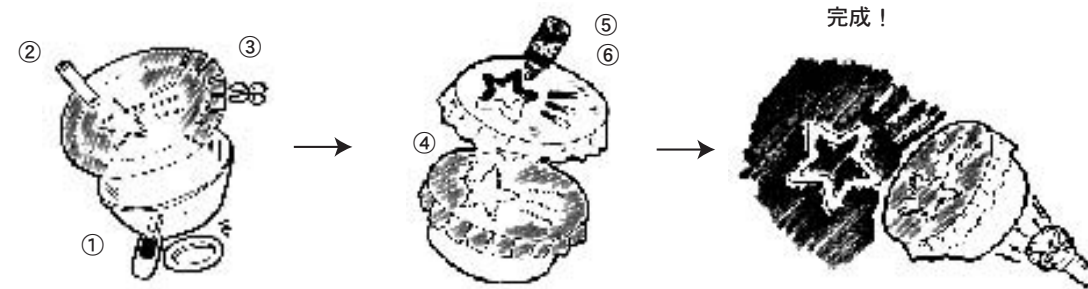
ときどき、ごあいさつとかまちがっておもしろいよ」子どもたちには違和感はありません。むしろ親近感さを持っているようだ。男性の幼稚園の先生、保育学科の男子学生に驚くのは、大人だけなのかもしれない。佐々木さんの取材の中でも、「男の保育士さんへの周りの反応は？」とか、「女子の中に男子が入ることにとまどいは？」という質問をしてはみたが、むなしく響いただけだった。

幼稚園に子どもたちを連れて常々感謝しているのは、先生方の子どもたち一人ひとり、そして親への心遣い。そういう細かいことに目が届く点は女性ならではの性質なのかもしれないと思こんでいた。しかし「子どもが好き」な気持ち、そして心の奥からの「やさしさ」を持っていることこそ親として望む先生像だ。そう考えると、そこには男と女の違いはないと改めて気づかされた。

Let's Try! 親子工作

歌川さんに教えてもらいました

<ラーメンカップのプラネタリウム>



- ① 丼型のラーメンカップの底をくりぬく。
- ② 黒の模造紙をカップの口より一回り大きく切り、白っぽい色鉛筆で図案を書く。
- ③ 外周に切り込みをいれカップにセロハンテープでぴったり貼り付ける。
- ④ 針で穴を開けながら図案をなぞる。
- ⑤ 穴が開いた黒模造紙の上からラップをかぶせて輪ゴムで止める。
- ⑥ 図案の穴の上を油性ペンでなぞり色を着けて完成。

「この家にでもある廃材にちょっとした工夫をしてみませんか？ カップの底から電気にかざして見てもいいし、暗い所で懐中電灯の光を通して壁に映してもきれいな星空の図案にすれば、まさにプラネタリウム！ 美しさに感激する子どもたちの目がキラキラして一番きれいです。(アイディア&イラスト 歌川智子さん)

ライター入門講座
「楽しく書ける文章術」を開催します

自分の伝えたいことを楽しく書いてみませんか。
きめ細かい添削で指導していただきます。

日時：平成17年1月31日、2月7日・14日・21日
(全て月曜日4回) 午前10時～正午
場所：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
講師：西村良平
(日本エディタースクール講師・実践女子短大講師)
定員：20名(市内在住・在勤・在学者)
保育5名(2歳以上学齢前)
内容：第1回 記事の文章を書いてみよう
第2回 わかる文章を書く
第3回 読まれる文章を書く
第4回 自分ならではの文章を書く
(内容については若干の変更があるかもしれません)
申し込み：往復ハガキ(記入例参照)で、または返信用ハガキを持って、1月19日(水)までに市民活動センター(6階)へ。なお定員に満たない場合は、締め切り後も受け付けます。お問合せください。

ハガキの記入例

- ① ライター入門講座
- ② 住所
- ③ 氏名(ふりがな)
- ④ 年齢
- ⑤ 性別
- ⑥ 電話番号
- ⑦ この講座で勉強したいことや希望について(100字程度)
- ※講座内容に要望を反映させたいので、必ず記入してください。
- ⑧ 子どもの氏名(ふりがな)
- ⑨ 子どもの生年月日
- ⑩ 子どもの性別

(保育希望の場合)

DV防止法が改正、施行されました

2001年に制定された『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(通称、DV防止法)』が2004年6月に改正され、12月2日から施行されました。

DV防止法の主な改正点

主な改正ポイント	改正前	改正後	
「配偶者からの暴力」の定義の拡大	身体に対する暴力	身体に対する暴力と心身に有害な影響を及ぼす言動	
※保護命令制度の拡大	配偶者の定義	配偶者(事実婚を含む)	元配偶者にも拡大
	接近禁止命令の対象拡大	被害者のみ	被害者と被害者の子(未成年 ただし15歳以上は本人の同意が必要)が対象
	退去命令期間の拡大等	2週間	2か月間に拡大 退去した住宅付近のはいかひの禁止

※保護命令とは、被害者が配偶者からの更なる身体に対する暴力によりその生命又は身体に重大な危害を受けるおそれがあるときに、裁判所が被害者からの申立てにより、加害者に対し発する命令。「接近禁止命令」と「退去命令」がある。

また、国や地方公共団体には、配偶者からの暴力を防止するとともに、被害者の自立を支援することを含め、適切な保護を図ることが明確化されました。
詳しくは、内閣府男女共同参画局のホームページでご覧になれます。 URL <http://www.gender.go.jp/>

Q3 10年後の自分の姿を想像してみてください。5年後、20年後でも。

- ・介護かな……。
- ・子どもたちが自分の道を見つけられるようサポートしたい。同時に自分自身も子どもたちから「なーんだ、つまんないの」と言われることのない日々を過ごしたい。
- ・この先どうなるのかまったくイメージできない。今の私は、5年、10年前に想像していたものと全然違うので。
- ・あまり、変わっていないかもね。
- ・子どもたちが独立した後、夫婦それぞれに好きなことを仕事に人生を楽しむ。できたら、夢を持つ人の応援をするような仕事に回りたい。
- ・独立開業して『42歳からの挑戦』という本を執筆、出版する。
- ・近所でパートをするかたわら、自分自身の趣味や勉強。思春期の子どもたちとギクシャクしているかも。
- ・環境分野の人材サービスの仕事をしている。
- ・それまで培ってきた経験や人脈を生かして、障害者を支援するボランティア活動をしている。更に10年後には、その活動を起業に結びつけたい。
- ・孫のおむつを替えている。

勇気を出して……

まなこレポーター はせ 馳 令子



「私だっただけにまだまだ役に立つんだぞ！」
という社会人としての安心感も生まれ、
大満足ではないが、私なりの第一歩を踏み出した。

ところが20年も家にこもっていた間にいつしか気持ち硬くなっていたようだ。今の私に何が出来るだろう、家族は何としようだろう、友だちはどう思うだろう、と考えるとなかなか一歩が踏み出せない。それでも今の生活を改造するためと勇気をふりしぼった私が次にぶつかったのは年齢の壁。50歳を目前にした主婦を雇ってくれる職場はほとんどない。職種を選ばなくてもいい話で、こちらの年齢を言っただけで不採用。だんだん気持ちも萎えてきた頃、通りすがりに見つけて飛び込んだのが今の職場である。こだわりの食材を生かした和食の店。調理を担当しているが主婦経験が十分役立っている。
そして半年。今まで何もしなかった夫が掃除機を手にし、食器を洗ってくれるようになった。わずかではあるが自分の小遣いができたのもちよつと嬉しい。マンネリでやめようかと思っていた習慣が急に新鮮で楽しく思え、何よりも一日、そして一週間の使い方を工夫できるようになった。



専業主婦として20年あまり、子どもはいつしか夫より遅く帰宅するようになった。家族を待つ時間の長いこと。このまま老いていくだけの人生？と考えたら急にあせりを感じた。とにかく外へ出て何かしたい。まずパートで働いてみたいと思う。

まなこ57号アンケートから

『まなこ』のアンケートはレポーター(毎年3月に募集)を中心にお願ひしています。

Q1 自分のライフスタイルを見直すことを考えていますか？ また、そのために何か準備をしていますか？

- ・子どもが独立するときを迎え、「これからの人生」を考えることが多い。
- ・17年の専業主婦生活をへて、長女の一言で一急発起。派遣会社に登録したり、資格試験の準備を始めたり、新しい自分さがしに四苦八苦している。
- ・手当たり次第新しいことにチャレンジする一方で、新聞をしっかり読み、時代の流れを知るようにしている。
- ・息子が幼稚園に入り、今まさに見直し始めたところ。元の仕事やライフスタイルに固執する気持ちがなくなり、限られた時間の中で新たにできることを探し、そのための勉強も始めている。
- ・転職を考えて活動中。半年間、キャリアコンサルティングの学校に通った。
- ・体力の曲がり角を経過中。今後は、徐々にライフスタイルをシフトダウンしていきたい。

Q2 新しい一歩を踏み出すのに、どんな手助けやアドバイスがあるといいですか？ なかなか踏み出せない人には、どんなアドバイスをしてあげたいですか？

- ・メンタル面だけでなく、ハローワークとの連携や社会とかわるためのさまざまな情報の提供など、より充実した行政の相談事業
- ・家族の協力や励まし
- ・体験者の生の声。たとえ失敗の場合でも。
- ・いい意味での聞き直り。最初から大きな成果を求めず、まずは小さな一歩から。
- ・やるが、やらないが迷ったら、とまどく具体的に動いてみる。何もしないで悔やむより、何かをやって悔やむ方がよいのでは。
- ・「すごい」「頑張れ」「できるよ」などと、力強く背中を押してもらおうとすこくやる気が出る。
- ・子どもとのかかわりをどう変えていくが、相談のつてくれる相手

レポーター会議風景



10月15日(金)10:00~12:00 市役所第603会議室にて

● 56号「子育て再考」について

・子育てSOS支援センターについて

児童相談所に近いサポートが武蔵野市でもできるようになったとわかり、安心した。／子育て家庭のささいな悩みにも親身に対応してくれる場だと知り、信頼感が増した。

- ・子育てについての寄稿は、どれも切り口がそれぞれ違って面白かった。
- ・アイデア豊かに暮らしを楽しむ実例や、地域で取り組まれている福祉活動の情報を得られて良かった。
- ・「わが子をより理解するためにも、ほかの子を見るのは大切」と専門家に聞いた。社会全体で子育てする時代にならないと、様々な問題が解決しないのでは。

57号のテーマに関連して

● ライフスタイルについて

- ・数年続けたパートを事情があって最近やめた。急に自分の世界がなくなったような怖さを感じ、資格を身につけて働きたいと奮闘中。
- ・子育て中なのでフルタイムの働き方ができないジレンマがあったが、いろいろな方向性を探そうと気持ちを切り替えた。
- ・安定した現状を変えずに一歩を踏み出せるか不安。相談相手がいるといい。
- ・社会との接点を求めてパートを始め、嬉しいことも大変なことも体験した。さらに新しい世界に飛び込むための一歩につなげていきたい。



今回のテーマに関する本を、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書の中から

● 10年後の自分について

- ・自分が家庭以外に何かを見つけ、家族からも受け入れられているような生活が理想。
- ・仕事にも勉強にも取り組めず、新しく動き出せない若い世代の状況は切実。10年後、20年後を担う人たちの悩みを、誰もが自分の問題として考えたい。
- ・子育てが一段落して知人の仕事を手伝う予定でいたが、家族が体調を崩し、断念。自分の将来像が介護と切り離せないのを強く意識している。

▶ 次号58号のテーマは「生きる(仮)」

天災や犯罪被害など、思わぬ不幸も人ごとではない昨今です。命の大切さを次の世代に伝えていくには、何が大切でしょうか。年間テーマ「再生」の集大成として、一緒に考えてみませんか。

ほん

● 2004年度版 心をケアする仕事したい

齊藤弘子 著 彩流社



これから新しい一歩を踏み出すために、何か仕事をしたい、と思っている人にこの一冊はいかがですか。

行方が見えない時代の閉塞感のためでしょうか。少年犯罪が続いたり、職場、学校、家庭内で人間の心理にかかわる問題が浮上しています。

「心」はまさに現代社会のキーワードとなっています。この心をケアする仕事をしたいという人のために「現場の本音を聞いて、資格と仕事を選ぶ本」が本書です。

公的資格から、協会、学会認定の資格、ボランティアまで、この一冊に「心の仕事」の全容が凝縮されています。

資格は仕事に結びつくか？食べていけるか？やりがいはあるか？知りたいことが満載の待望のガイドブック。

● 童話作家はいかが

ひろし 齊藤 洋 著 講談社



黒猫が足をふんばって、キッとこっちを見ている表紙の本、『ルドルフとイッパイアッテナ』という児童書をご存知の方は、多いことでしょう。ボス猫イッパイアッテナと、チビ黒猫ルドルフの友情物語は、講談社の児童文学新人賞を受賞。子どもたちに熱狂的に支持され、40万部近いロングセラーとなりました。

気が付くと童話作家になっていた著者のユニーモアと諧謔(かいぎやく)にみちた体験的職業論。ユニークな27の教訓には、なるほど！と感じます。

武蔵野市境2-10-27 武蔵境市政センター2階 TEL・FAX 0422 (37) 3410 E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL http://www.clipcraft.or.jp/m_hnc

STAFF

- レポーター 岩崎多恵子・曾我部一美
藤間みゆき・馳 令子
福井貴美子・保坂敏子
松田 理恵
- 取材・編集 森 治美(編集長)
尾花雅子・加藤和子
藤井美里・星 詩子
- ☆他にもたくさんのアンケート協力員、編集協力員に支えていただいています。
- デザイン 小井戸厚子
イラスト 本田 倫
印刷 社会福祉法人 東京コロニー

★結婚も出産も私にとつては「はじめの一歩」次の一歩は何だろう？ときどき気持ち悪く、リセットしながら、いろんな道を歩いてみたい。(星 詩子)

★いつも、家庭の外に足を何歩か踏み出して生活してきたように思う。これからの5年、10年、家庭にしかと足をつけて見守っていききたい。両親の老いと息子たちの巣立ちを。(森 治美)

★1週間の宿泊学習から帰宅した長男が真っ先にしたのは「無事帰ったよ」の一報。お世話になった民宿の方たちへ、だった。自立への一歩を刻み始めたの？と嬉しくも複雑。私、上手に子離れできるかな……。(藤井美里)

★引越しをするたび、その環境になじもうとした。これも新しい一歩だったのに今まで気付かなかつたのは、周りの人に助けられながら勝手にとけこめたから。いつでもどこでも誰かに支えられている(尾花雅子)

編集後記